



“自分たちの街は自分たちで守る”

第9号  
行  
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地  
電話(0545)51-0123  
内線(3333)  
FAX(0545)53-4633



## 消防長訓辞

消防長 加藤 弘



# 平成十一年富士市消防出初式挙行

## 一月十日 富士市役所前青葉通り

## 消防団長訓示

消防団長 大沼章男

位の不断の努力、積極的な啓蒙活動  
並びに市民各位のご協力の賜物であ  
りまして、誠に喜ばしい限りであ  
ります。

近年、消防の使命は、益々重大な  
ものとなってきており、市民の消防  
に寄せる期待は増大しております。

いついかなる災害時においても、  
市民生活の平和と安全を守るために消  
防関係者が英知を結集するとともに  
消防精神の高揚と消防の團結が不可  
欠であります。

一月十日、八時三十分から富士市  
役所南側青葉通り及び市役所駐車場  
において「富士市消防出初式」が衆  
議院議員、県議会議員、市議会議員  
等多数のご来賓を招き、消防職団員  
をはじめ静岡県消防協会表彰等の受  
賞者など消防関係者約一、四〇〇人  
が参列し盛大に挙行されました。

式典は、消防団ラッパ隊の吹奏す  
る中、観閲者の入場に始まり消防次

長の開式宣言、国旗掲揚、国歌斉唱  
が行われた後、式次第により進めら  
れました。

式典の中で平成十一年四月に消防長  
に就任いたしました加藤弘消防長、  
同じく平成十年四月に消防団長に就  
任いたしました大沼章男消防団長の  
訓辞等がありましたので次に掲載致  
します。

富士市消防職団員の皆様、明けま  
しておめでとうございます。

本日ここに、平成十一年の年頭を  
飾る富士市消防出初式を関係者多数  
のご隣席を賜り挙行出来ますことを  
心からお礼申し上げ、団長として一  
言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、富士市における火災発生  
件数は、八十九件と近年まれに見る  
件数に減少出来ました。また、昨年  
八月、前線の停滞と台風四号の影響  
による記録的な集中豪雨により全国  
各地に被害をもたらし、死者二十名  
という尊い人命と財産が奪われる惨  
事となりましたが、幸いにして本市  
におきましては、大きな被害を伴う

ことなく、これは、一重に消防職  
員各位のご精進と防災関係機関各  
方の健勝とご多幸を祈念いたしまして訓  
示といたします。

終わりに臨み、富士市消防の発展  
と消防職団員及びご家族並びにご隣  
席を賜りましたご来賓の皆様方のご  
健勝とご多幸を祈念いたしまして訓  
示といたします。

輝かしい平成十一年の年頭にあた  
り謹んで新年のお慶びを申し上げま  
す。

本日ご来賓の皆様方には平素から  
消防行政の推進に格別のご支援、ご

協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
近年の災害態様は、都市化、高齢  
化の進展等、社会情勢の目まぐるし  
い変化により、大規模特殊化、複雑  
多様化の傾向にあります。

このような状況の中、消防行政に  
寄せられる住民の期待は一層増大し  
ており、防災の第一線を担う消防と  
致しましてはあらゆる灾害に適確に  
対応するため、消防防災体制のさら  
なる充実強化を図っているところで  
あり、大規模灾害時の広域応援協定  
にもとづく、緊急消防援助隊の合同  
訓練等へ参加する他、高度救急救助  
体制の強化充実、また、予防対策及  
び震災対策の推進に積極的に取り組  
んでおります。二十一世紀を目前に  
控え、大きく変革する社会の中で消  
防を取りまく環境は益々きびしく、  
ます。

このよな中、消防人として課せ  
られた使命と、責任の重大さを、深  
く認知するとともに、新たな決意を  
もつて、消防体制の強化充実に万全  
を期し、一致団結して地域社会の安  
全確保のため、今後一層努力精進さ  
れますことをお願いして訓辞と致し  
ます。





## 水出し操法に向けて

### 訓練礼式指導員として

団本部 訓練指導員

後藤 正明

第六分団 部長

梶屋 根

第二十六分団 班長

白黒 彰

静岡県消防協会が昭和五十年度から実施してきた小型ポンプ操法が平成十一年度より、それ迄の空操法から実践の水出し操法となる。新規の機械器具も一式揃い、一日も早い新操法の習得をすべく、ポンプ指導員が一丸となつて全国操法大会、清庵支部大会の見学会、富士支部研修等を重ね、市役所駐車場等での水出しの実践訓練と水出し形式の空操法を積んできているところである。しかし夜間の訓練は水利の確保、エンジンの騒音等で場所の確保が課題となる「水出し小型ポンプ操法は【操作始め】の号令からポンプの起動、ホースの連結、放水による標的の消火に至るまで四十五秒以内、如何に安全を確保し行動、動作が迅速かつ節度正しく行われるかを競うのである。」今後も試行錯誤する中で更に努力精進を重ね、小型ポンプ指導員としての使命と新たな決意をもつて「こと」にあたつていく所存です。

富士市消防団 ラッパ隊

第十六分団 ラッパ隊副隊長

近藤 保文

富士市消防団ラッパ隊は昭和六十五年四月高田良一隊長以下総勢二十五名で発足しました。現在十二年目になります。ラッパ隊は消防団の儀仗隊として消防団活動の式典において儀礼や士気高揚、命令伝達などをラッパ隊の吹奏により行います。

又、消防団の広報活動として各種の催し物に参加しています。主な出

静岡県消防協会が昭和五十年度から実施してきた小型ポンプ操法が平成十一年度より、それ迄の空操法から実践の水出し操法となる。新規の機械器具も一式揃い、一日も早い新操法の習得をすべく、ポンプ指導員が一丸となつて全国操法大会、清庵支部大会の見学会、富士支部研修等を重ね、市役所駐車場等での水出しの実践訓練と水出し形式の空操法を積んできているところである。しかし夜間の訓練は水利の確保、エンジンの騒音等で場所の確保が課題となる「水出し小型ポンプ操法は【操作始め】の号令からポンプの起動、ホースの連結、放水による標的の消火に至るまで四十五秒以内、如何に安全を確保し行動、動作が迅速かつ節度正しく行われるかを競うのである。」今後も試行錯誤する中で更に努力精進を重ね、小型ポンプ指導員としての使命と新たな決意をもつて「こと」にあたつていく所存です。

変化し大会内容も少しづつ改正されているものの、訓練礼式部門の中止がとりざたされて心配しております。たが、審査要領改正等により実施される模様であり、その必要性はだれもが認めるところと考えています。

また平成十一年度の県査閲大会に向け、富士支部でも富士市を開催地として支部大会が行われ、優勝隊が県大会に出席します。

訓練礼式の目的とは、隊員を諸制式に熟練させ、その部隊行動を確実にし、厳正な規律を身につけさせ、消防諸般の要求に適応させるための基礎を作り、礼節を明らかにして、規律を正し、隊員の品位の向上を図ると共に、和衷協同して隊員の団結を強固にし、もつて消防一体の実をあげることにあります。

これに基づき、各個訓練、部隊訓練等の基本動作を隊員に熟練させ、訓練大会が実施されていますが、全国大会がなく唯一静岡県だけで実施されております。

しかし昨今、消防団全体の問題点である団員の減少による隊員の確保、訓練会場、日程等問題点が多くあります。実施に向けて大変だと思います。小隊訓練も以前は三十人編成で行われていましたが、現在は二十人編成に

## 消防団員になつて想う

消防まつり、消防出初式、防災訓練、各講習などに参加したり、火災現場での消火活動や訓練大会に向けてのポンプ車操法の練習を仲間と重ねているうちに、いつのまにか毎月詰所へ行って仲間と顔を合わせるのが楽しみになりました。

現在では私も、班長になり分団の中でも副機関員を任せられています。

以前とは団員の顔ぶれも、すっかり変わり、私よりも年の若い団員達が入団して来るようになりました。

これからは、私は消防団活動を教えて下さった先輩方に代わり自分が若い団員達を指導していくなければなりません。代表選手は仕事等諸般の事情で多忙とは思いますが、個々に責任感を持つて、大会に望んでほしいと思います。

我々訓練礼式指導員も、皆様の期待に応えるべく、大会に向けて検討会を重ね、消防団を背負う若い世代の気持ちを考慮し、より向上出来るよう、諸先輩の教えと自分たちの知り得る経験を生かして、今後の指導に心掛け頑張って行く覚悟でござります。

富士市では、出初式、消防団長就退任式、訓練大会、富士まつり、消防まつり等で、平成十年三月八日ロゼシアターで催された自治体消防五十周年記念消防音楽隊演奏会に参加しました。

今以上の消防団活動にする為に個々の信頼関係を一層深めていきたいと思います。

私は、ラッパ隊の活動は他の団員によく知られていないので分からぬかと思いご案内申し上げる次第です。そして、各分団ラッパ隊員に御理解と御支援をよろしくお願ひします。

しかし、ラッパ隊の活動は他の団員によく知られていないので分からぬかと思いご案内申し上げる次第です。そして、各分団ラッパ隊員に御理解と御支援をよろしくお願ひします。

現在ラッパ隊員を十名募集しています。吹奏楽の経験がなくても結構です。そこで、各分団ラッパ隊員に御理解と御支援をよろしくお願ひします。

富士市で行われる支部大会では各出場選手と同じで富士市消防団の代表であるという思いで参加しています。

これらのように年間を通じての活動の為、ラッパ吹奏の技量の維持、向上の為に週一回の練習が必要であるとの考えの基に毎週木曜日に練習しています。我らラッパ隊員は、各



## ラッパ隊回想

第十三分団 班長

吉田 和年

「今年からラッパ隊ができたのでうちの分団の代表として出てくれ。」当時の分団長から言われ軽い気持ちで入隊しましたが、入ってビックリ。こんなに大変だとは思いませんでした。発足当時は高田隊長のほかに専門の先生が来て消防本部の三階で練習を行いました。音楽のイロハから始まり、「ロングトーン」「タンギング」等々。

もともと音楽は好きでギターを少しあつてましたが、ラッパは中学三年の時、プラスバンド部でチューバを少し吹いていただけなのでなかなか音が出なくて困りました。特に高い「ミ」と「ソ」が出なく大変苦労しました。大変だったと言えば最初式の練習も大変でした。夜八時ごろから市役所のまわりをラッパを吹きながら行進します。暗くて足元が悪い上に寒くてなかなか音が出ません。出初式当日も大変でした。消防

団員の前に整列するので身動き一つできません。しかし、それもこれもラッパ隊をやめてしまった今となつては楽しい思い出です。楽しいといえば他の分団の人と友達になれただ事の一つです。消防団に入団して他の分団の人と話をする事はめったにありません。今でも規律訓練や消防まつりなどで以前の隊員に会うと「どうだい」「元気かい」などと気軽に話が出来て本当にラッパ隊に入つてよかったです。消防団に入つてよかったです。消防団に入つてよかったです。

年と少しだけですがその間に、私自身大変勉強になりました。以前は、教えてもらう立場でありましたが、逆にありました。今でも規律訓練や消防まつりなどで以前の隊員に会うと「どうだい」「元気かい」などと気軽に話が出来て本当にラッパ隊に入つてよかったです。消防団に入つてよかったです。

どのように教えたたら正確に理解してもらえるかという事です。こちらの考えている事が思う様に相手に伝わらない事があるからです。相手に理解してもらうには、まず相手の立場にたつて、どこが分からぬのか、どうしたらしいかを一緒にになって考

えてみる事ではないでしょうか。「小隊訓練」は、団体の演技です。一人一人の動きが逆に目立つ種目です。先輩指導員から聞く言葉です

## 指導員になつて

第三分団 班長

勝亦 和利

まだ私は覚える事がたくさんあります。経験を積みながら、指導員として少しでも消防団のお役に立てれば幸いです。

訓練は大変ですが、結果を出せた時の喜びは何事にも代えがたいものがあります。

## 消防訓練

第十五分団 班長

福島 良晃

九月一日の防災の日、米之宮浅間神社東側の広場にて、早朝より十一時頃まで、富士市駅北地区町内会の皆様、各事業所の方々、西消防署と第四方面隊、救助犬隊により、大掛かりな合同訓練が、分刻みで行われました。数日前から天候が悪くて広場は、ぬかるみのために足元が不安定な状態でしたが、各人の持ち場と連携を守り、皆で協力しながら、火災消火で一斉放水。人命救助の大変多いので適任者がいればぜひ入隊を勧めます。最後になりましたが、二代目河合隊長、いろいろ御指導頂き誠にありがとうございました。



決めて、自分がどこまでやれるのか、その可能性を信じて、一緒に入団した仲間と共に早く先輩方や市民の皆さんのお役に立てるよう、一人前になつて、地域の消防活動の意味をよく理解し、我々の後輩や、次の世代へ、しっかりと受け継いでいるよう努力したいと思います。

講義の中で、ここ近年の火災の発生状況、死亡者数、犯罪の傾向等、話がありました。そういう諸問題に対する、これから消防活動で養われるであろう、ど根性と、強い意思をもつて、しっかりと地に足をつけ正面からぶつかっていきたいと思います。今、この情熱を忘ることなく、これから先、日々、消防道に励んでいきたいと思います。

## 新入団員教育

第十一分団 団員

勝又 敏明

五月十七日の新入団員教育に参加しました。

当日は、天候に恵まれ午前九時からの講義の後、市役所北側駐車場での規律訓練に臨みました。基礎的な事は分団で指導していただいているのですが、緊張の為か回りが見えづらいました。

お互いに合わせようと歩み寄ったその姿勢がよい結果につながつたと思います。その他、細かいところは、各分団に帰つて指導員や先輩方に指導していただくというこ

## 新入団員教育

第十八分団 団員

渡辺 将人

五月十七日(晴れ)、富士市役所で行われた新人団員教育に参加した。

初めて消防団員としての活動、現在では非常にめずらしい縦社会であります。

最初の各個訓練に始まり、実際に消防機材を使っての訓練では、ホースの長さを体でおぼえ歩数を合わせ全力で走りホースの長さでピタリと止まる。初めはこんな経験してい

ては楽しい思い出です。楽しいといえれば他の分団の人と友達になれただ事の一つです。消防団に入団して他の分団の人と話をする事はめったにありません。今でも規律訓練や消防まつりなどで以前の隊員に会うと「どうだい」「元気かい」などと「どうだい」「元気かい」などと

年と少しですがその間に、私自身大変勉強になりました。以前は、教えてもらう立場でありましたが、逆になつてあらためて指導する事の難しさを知りました。

どのように教えたたら正確に理解してもらえるかという事です。こちらの考えている事が思う様に相手に伝わらない事があるからです。相手に理解してもらうには、まず相手の立場にたつて、どこが分からぬのか、どうしたらしいかを一緒にになって考

えてみる事ではないでしょうか。「小隊訓練」は、団体の演技です。一人一人の動きが逆に目立つ種目です。先輩指導員から聞く言葉です

が、「一拳手一投足」に至るまで、神経を張りめぐらせて動く事がとても大事だと思います。

訓練は大変ですが、結果を出せた時の喜びは何事にも代えがたいものがあります。

## 新入団員教育

第一分団 団員

大谷 和彦

平成十年五月に新入団員教育を受講しました。開講式の後、責任と心構えの研修を受け、改めて消防活動の大重要な事、そして団員一人一人が責任を持ち行動しなければと実感しました。研修室での講義も終了し、次に団体での規律訓練、訓練の中で最初に感じた事は指導員の方々の指の先まで力の入った素早い行動でした。自分の手の位置、指の先、足の開き方など意識していくなか上手にいきません。少しずつ指導員に直してもらひながら団体全体がまとまりのある行動ができた時、気分が良く、やりがいがあると思いました。



その後、大型、小型ポンプ操作の実習、この時指導員の方々の全力でホースを延ばし走る姿を見て、自分たちができるのか心配になりました。実際火災現場でも素早く確実な行動ができるようになります。

心からご苦労様  
第七分団 班長 山口 豊

ティーン、ティーン、「ただ今、火災が・・・」の広報が流れるときの間で、父さんは、あつとう間に、カッコイイ消防団員に変身します。普段は会社で営業マンとして働く父は仕事を疲れて帰ると、夕食を済ませ茶の間でゴロンと寝てしまい私が起こしても、なかなか起きてくれません。

朝まであと二時間は寝れるな。」と、言いながら布団に入る父を見て心からご苦労様でしたと思いません。

秋、冬の季節が来ると地区行事や消防まつりへの参加、火災予防運動などますます忙しくなって大変だけど、危険を伴う消火活動には十分に気をつけて、これからもずっと七分団で活躍してほしいと思います。

動ができるように、訓練を繰り返しやつていこうと思いました。

新入団員教育の閉講式において新入団員を代表して団長から終了証をいただき、これから消防団活動に、責任と素早い行動を心掛けていこうと決めました。

## 救急講習

第九分団 部長

佐藤 彰信

「おじいさん、大丈夫ですか?」「誰か救急車を呼んで下さい!」と一人ずつ、すばらしい機能のついた人形を使用しての救命講習の時、私は次男の幼い時のことを思い出していた。

それは、雨上りの蒸し暑い朝、

「トツキは?」「その辺にいるでしょ」と忙しそうな妻の声。だが、その辺のゴムの上に少しだけたるむお肉いつも思っていました。最近はパンツのゴムの上に少しだけたるむお肉が気になる年になつたせいか、若い頃のようなきびしい訓練はしていましたが、自分が消防団の先輩から教えていただいた事を若いお兄さん達に伝えるために訓練のお手伝いに進んで参加しています。

厳しい訓練できたえた责任感で直接教えてくれるお父さんは私の自慢です。

## 二十四分団に入団したある日の出来事

第二十四分団 団員 植松 芳典  
家族 植松 直美



『自分たちの街は自分たちで守る』を合い言葉に、所属する第七分団のおじさん、お兄さん達と協力して火災から私たちを守ってくれる頼しいお父さんをお手本に、私も学校や家庭で話し合いの場をもち、自分ができる火の用心を心掛けようと思っています。

真夜中の出動や、鎮火に時間がかかる火災の時は、怪我してないだろうかと心配でたまりません。

今年度は、自分が地域の人為に出来る事をしようと思ったからでした。そんな彼の、初めての出動は午前四時ごろ、広報が流れ、熟睡していたはずなのに【二十四分団出動】と聞くなり、パット着替え「行ってくるヨ!」と出掛け行きました。その時、私は、火災現場も近かつたこともあり、消防車のサイレンを聞きながらドキドキしてしまいました。冬の夜警、出初式、それにまだ知らない活動もありますが、これからも地域の為に頑張つてもらいたいと思います。

どころか何處にもいなく、(まさか...)と風呂場を覗いて見たがいない。(よかつた)着替えをして息していたが、未だにその辺に姿がない。子供の生

命力が私を呼んだのか、いつか私は風呂場の前に立っていた。

その時、かすかに「コトツ」と音がした。もしかして...と重なつた板を取ると、うつ伏せになつた状態で浮いていた。慌てて抱き起こした時、手足が固まつて、『飛行機』をしている様だった。顔は青白く、目は半開き、内心ダメだと思った。

「トツキ!、トツキ!」私の異常な声に、妻と近所の人たちが駆けつけてきた。わけも分からず叫び、呻いていた。「口から息を吹き込んだら?」の助言に、すぐに口から息を吹き込み、また吸い取り、また吹き込んだ。(助けてくれ、なんとか助かってくれと願いを込めながら)

何度も繰り返している時、『ズルズル』と鼻が出る音がした。助かった。

貴重な実体験と、今回の講習と重ねて、何らかの役に立てばと思います。我が九分団は、火災・天災の他に山岳救助の出動もあるので、三角巾の使用方法も知つていて大変便利だと思うが、すぐに忘れてしまうのが難点かな。しかし、普通救命講習終了証をもらったからには、少し自信を持つて役立てていきたいと

思います。

## 消防団員家族協力推進懇談会

平成11年2月16日(火)  
於:ホワイトパレス

日頃から消防団活動に協力されている団員家族の労をねぎらうと共に、消防関係者との意見交換を行い、今後の消防団運営の円滑化を図る目的で、盛大に開催されました。



平成11年2月16日(火)  
於:ホワイトパレス

五年、二十五年、三十五年と長年の功績を表彰される方々は大変忍耐力の強い人と感心させられます。また、忘れてはいけないのが家族

も精神的にもつらい時に多く発生しますので、一度出動すればその大変さがよくわかると思います。

ですから、年頭の出初式の際、十五年、二十五年、三十五年と長年の功績を表彰される方々は大変忍耐力の強い人と感心させられます。また、忘れてはいけないのが家族

が経ちました。この八年の中で私が一番感じたことは、富士市内の火災が非常に多かつたことです。

多分、私が入団する前とあまり火災の件数は変わっていないと思いまして、自分の中の「火災」に対する意識の違いだと思いますが、入団前は広報の放送も「どこで火災かなア」程度しか感じていませんでしたが、今は、「うちの分団は出場か?」と、広報が鳴った瞬間から緊張し、夜中でも目が冴えてしまう程です。この緊張感は消防団員にならなければ経験できないと思います。でも、この緊張感(緊迫感)を長い時間持続させるのは、かなりの精神力が必要と思われます。冬の寒い日の火災や真夜中、明け方の火災など、体力的にも精神的にもつらい時に多く発生しますので、一度出動すればその大変さがよくわかると思います。

消防団に入団し、早いもので八年が経ちました。この八年の中で私が一番感じたことは、富士市内の火災が非常に多かつたことです。

多分、私が入団する前とあまり火災の件数は変わっていないと思いまして、自分の中の「火災」に対する意識の違いだと思いますが、入団前は広報の放送も「どこで火災かなア」程度しか感じていませんでしたが、今は、「うちの分団は出場か?」と、広報が鳴った瞬間から緊張し、夜中でも目が冴えてしまう程です。この緊張感は消防団員にならなければ経験できないと思います。でも、この緊張感(緊迫感)を長い時間持続させるのは、かなりの精神力が必要と思われます。冬の寒い日の火災や真夜中、明け方の火災など、体力的にも精神的にもつらい時に多く発生しますので、一度出動すればその大変さがよくわかると思います。

消防団に入団し、早いもので八年が経ちました。この八年の中で私が一番感じたことは、富士市内の火災が非常に多かつたことです。

## 家族の協力

第二十分団 団員

山崎 容穂

の協力だと思います。きっと長年にわたり消防団活動に頑張られたのは、奥さんの理解であり、またその家族協力があつたからこそと思います。実は私もこれまで頑張れたのは妻と家族の協力があったからです。

消防団に入団し、早いもので八年が経ちました。この八年の中で私が一番感じたことは、富士市内の火災が非常に多かつたことです。

多分、私が入団する前とあまり火災の件数は変わっていないと思いまして、自分の中の「火災」に対する意識の違いだと思いますが、入団前は広報の放送も「どこで火災かなア」程度しか感じていませんでしたが、今は、「うちの分団は出場か?」と、広報が鳴った瞬間から緊張し、夜中でも目が冴えてしまう程です。この緊張感は消防団員にならなければ経験できないと思います。でも、この緊張感(緊迫感)を長い時間持続させるのは、かなりの精神力が必要と思われます。冬の寒い日の火災や真夜中、明け方の火災など、体力的にも精神的にもつらい時に多く発生しますので、一度出動すればその大変さがよくわかると思います。

## 私の思う消防団

第二十二分団 団員 渡辺 政人

家族 渡辺 彩

の協力だと思います。きっと長年にわたり消防団活動に頑張られたのは、奥さんの理解であり、またその家族協力があつたからこそと思います。実は私もこれまで頑張れたのは妻と家族の協力があったからです。

消防団に入団し、早いもので八年が経ちました。この八年の中で私が一番感じたことは、富士市内の火災が非常に多かつたことです。

多分、私が入団する前とあまり火災の件数は変わっていないと思いまして、自分の中の「火災」に対する意識の違いだと思いますが、入団前は広報の放送も「どこで火災かなア」程度しか感じていませんでしたが、今は、「うちの分団は出場か?」と、広報が鳴った瞬間から緊張し、夜中でも目が冴えてしまう程です。この緊張感は消防団員にならなければ経験できないと思います。でも、この緊張感(緊迫感)を長い時間持続させるのは、かなりの精神力が必要と思われます。冬の寒い日の火災や真夜中、明け方の火災など、体力的にも精神的にもつらい時に多く発生しますので、一度出動すればその大変さがよくわかると思います。

## ただ一つ悩みとして頭を離れない

事は団員不足で、どこの分団でも団員が減少にあると思います。わが二分団も現在二名の欠員で二十八名です。私が入団した当時には考えられません。昔は十六才になると青年団に入り、やがて家のあとどりは消防団や水防団に必ず入り、横つながりがしつかりしていましたと思います。

しかし、今は学校を卒業してしま

えば地域とのつながりなどはほとん

ど無いように思われます。地域に残

る者にとって、消防団というものが、

仕事上以外の友達と交流をする場と

して、素晴らしい組織であることを

若い人に伝えて行きたいと思います。

消防に入つてみると、火災出動、

訓練と、人より負担が多くなり大変

だからイヤだと言うのではなく、そ

れ以上に精神的に得るもの大きい

という事を、少しでも多くの若い人

達に、分かってもらえばこんなに

嬉しいことはありません。

## 分団長になつて

第二分団 分団長

井出 靖和

夜中でも消火活動をしなくてはいけないので。火災が多い冬はとくに夜間巡回を行い、少しでも火事が減るようにと、いろいろ工夫していくのです。だから私たちも安心して実生活を送ることができるのを忘れてはいけないと思います。

これからも私たちは消防団を応援

し協力していかなければなりません。

父が消防団に入るまでは「消防団」

という名ぐらいしか知らずあまり活

動などわかりませんでした。

しかし、今は消防団の苦労や楽し

さがわかるような気がします。消防

団イコール消火活動つて気がします

よね。けどちがうんです。消火活動、

火災予防の呼びかけはもちろんのこ

と、「消防まつり」「出初式」「ソ

フトボール大会」「放水訓練」など

皆さんが知らない活動をいろいろ行つ

ているのです。よく消防団のことを

よく言わない人がいますが、私はち

がうと思います。そういうことを言

う人は消防団のことを良く知らない

人です。冬の寒い中、早朝訓練を行

い、冷たい水を使って放水訓練をして

いるのです。また火災がおきれば

## 『退団して思ったこと』

元第二十五分団 分団長

山口英四郎

平成十年三月三十一日をもつて、

富士市消防団員を免ぜられました。

三十年六ヶ月よく無事に何事もなく勤め上げられたものだと思ったのが私の実感でした。

私が入団した当時は、まだ青年団や若い人達が集まつて、何か行事をやる事が多かつたと思います。

そういう中から消防団への参加と消防団活動という生活の中で家族

で行動をする人達が増え、皆で一つの事を行うという事が減っています。こういう世相だから、団体活動の消防団への参加が遠ざかっていつていよいよ回りの人達の理解により、過ごし

できました。消防団での思い出は多々

あります。訓練大会、ソフトボール

大会などで優勝や失敗、火災出動

での消防作業等です。

なかでも滅多に経験することがな

い昭和五十七年四月、二十五番目の

分団新設に団員の一人として、参加

できました。団活動の一線を

退きましたが、消防団の重要さ、素晴

らしさは十分に分かっているつもり

です。団員確保の事など、常に頭に

置いてるつもりです。消防団の事を

忘れないようにしたいと思います。

## 消防団員に任命されて

第四分団 班長

中山 秀昭

消防団員に任命されて今年で満五年になり、去年の出初式で、名誉ある勤続功労章を授かりました。残念ながら出初式には、母の他界により参加出来ませんでしたが、消防団に入団して大変良かったと、入団した頃のことを思い出している今日この頃です。私が入団したきっかけは、「何とか地域の人と交流を深めたい」との思いからでした。と言うのも私は、青森県出身で四分団の管轄である今泉に来て僅か三年しか経っていない訳ですが、今泉の右も左も解らない私は一つ返事で入団することにしました。入団した当時の私は昼夜交代の勤務だったので分団の行事には夜勤の時殆ど参加しませんでした。これは、努力すれば参加出来たのですが、先輩から誘いを受けた時「出られる時出れば良いから」と言わされたので、参加出来ないのは仕事でした。これは、努力すれば参加出来たのですが、先輩から誘いを受けた時「出られる時出れば良いから」と言わされたので、参加出来ないのは仕事でした。

## 消防まつり

第二十三分団 班長

長谷川裕則

第十二回消防まつりが、市役所駐車場にて盛大に開催されました。各分団、毎年工夫を凝らした模擬店を開きますが、わが分団は第一回消防まつりより、ラーメンを販売しております。

方がないという甘えがあつたからだと思います。今、みんなに大迷惑を掛けた事を反省すると共に、団員の勧説時には、分団員の役割と責任を充分説明し、理解させ、納得させた上で入団してもらう様にしたいと思います。

その他いろいろな事を思い出します。消防まつり、家族慰安、分団の行事、私にとっては良い思い出ばかりです。しかしやな事もあります。

それは「消防は酒を飲むだけ」と言われた時です。私も含めて、「地域住民の生命と財産を守る」という使命感、又は、ボランティア精神で頑張っている人も大勢いると思います。生意氣な事を言う様ですが、そう思われないように、消防団員全員が様を正していく必要があると考えます。

私は現在、方面隊の訓練礼式指導員を仰せつかっております。早いもので四年目を迎え、その重責を思ひしらされております。今後も訓練に精進し、みんなに信頼される指導員になれるよう頑張って行く所存ですので、皆様方の叱咤激励をお願い致します。

## 消防団活動への活力

第十分団 団員

中村 勝

入団五年目を迎えて一応消防団活動の年間行事をある程度経験し、内容を把握出来たレベルですが今思うと五年もかかっていることで、実際の活動に対しあまり良い活動実績ではないと感じています。

今回、消防団だよりの原稿の話が出来て、すぐ頭に思い浮かんだのが、自分自身に「今、消防団に在籍しているのは何故か?」でした。

そこでこのテーマについて書き記す事にしました。

活力その一・・・家族

これは私の自己満足ですが、地域内外は、てんやわんやの大忙しで猫の手も借りたいほどになります。団員の奥様、家族の方々の協力によって、毎年楽しく完売になります。家族も、団員も、一緒に顔を合わせ楽しく過ごせる一日となりました。来年もよろしくお願い致します。

## 恒例!七面山改め 身延山登山

第十四分団 団員

橋本 和己

六月十四日、十四分団恒例の七面山登山の日がやってきました。

この七面山登山というのは、何十年前の先輩方の県査閲大会の入賞のお礼参りが始まりと聞きました。七面山は一九八二メートルの山で、初めて登る山に不安をいだいていました。しかし、当日はあいにくの雨、正直「これで登山はしなくてもよいかな」と、ホッとしていましたが、ほとんどの団員が参加し、身延入りしましたが、やはりこちらも雨。

「いままで身延まで行かなかった事は無い」と言われ、朝の五時に詰所に集合しました。

私は入団一年三ヶ月ですが、トレーニングを休んでいた時期に、二度目の火災出場があり、製紙会社の工場

火災の消火に、百メートル程のホークは、火災現場でも生かされたのでしょうか。そして、これからも消防活動には、できるだけ参加し、チームワーク向上に努め消防活動をしていくのだと思いました。このチームワークは、火災現場でも生かされたのです。みんな雨に濡れ、汗でびしょぬれになりながら全員無事に山頂までたどり着きました。

私は入団一年三ヶ月ですが、トレーニングを休んでいた時期に、二度目の火災出場があり、製紙会社の工場

火災の消火に、百メートル程のホークは、火災現場でも生かされたのでしょうか。そして、これからも消防活動には、できるだけ参加し、チームワーク向上に努め消防活動をしていくのだと思いました。このチームワークは、火災現場でも生かされたのです。みんな雨に濡れ、汗でびしょぬれになりながら全員無事に山頂までたどり着きました。

ス延長をした事がありました。何度もポンプ車と火点の近くを、ホースを掛けた事で、身延山奥之院を目指すことになりました。こちらは標高一一五メートルと七面山の約半分ですが、以前一度だけ登った事があり、最後の方は結構キツかったという記憶があります。さて、よいよ登山開始です。最初は横一線、出だしはみんな一緒です。しかし五分も登ると、トップと最後尾と、集団が別れてしましました。私は由緒正しいスキーヤーなので、オフシーズンもトレーニングを欠かしません。もちろんトップ集団です。みんな雨に濡れ、汗でびしょぬれになりながら全員無事に山頂までたどり着きました。

私は入団一年三ヶ月ですが、トレーニングを休んでいた時期に、二度目の火災出場があり、製紙会社の工場火災の消火に、百メートル程のホークは、火災現場でも生かされたのでしょうか。そして、これからも消防活動には、できるだけ参加し、チームワーク向上に努め消防活動をしていくのだと思いました。このチームワークは、火災現場でも生かされたのです。みんな雨に濡れ、汗でびしょぬれになりながら全員無事に山頂までたどり着きました。

私は入団一年三ヶ月ですが、トレーニングを休んでいた時期に、二度目の火災出場があり、製紙会社の工場火災の消火に、百メートル程のホークは、火災現場でも生かされたのでしょうか。そして、これからも消防活動には、できるだけ参加し、チームワーク向上に努め消防活動をしていくのだと思いました。このチームワークは、火災現場でも生かされたのです。みんな雨に濡れ、汗でびしょぬれになりながら全員無事に山頂までたどり着きました。

活力その二・・・地域のなかに自分がいる。

活力その二・・・地域のなかに自分がいる。

これは私の自己満足ですが、地域内外は、てんやわんやの大忙しで猫の手も借りたいほどになります。団員の奥様、家族の方々の協力によって、毎年楽しく完売になります。家族も、団員も、一緒に顔を合わせ楽しく過ごせる一日となりました。来年もよろしくお願い致します。

活力その二・・・地域のなかに自分がいる。



## 二十一分団の消防まつり

第二十一分団 班長

光山 幸行

私たち二十一分団は、家族と分団員が一つの目的を共有して、理解を深め分団家族同士が打ち解け合い、さらに地域社会との絆を作りあげて行く機会を持てることが出来るのが、「消防まつり」だととらえています。

日頃の消防活動を円滑に進めるには、家族の協力と理解を得なければ、団員としての活動に支障を来すこととなり、「消防まつり」の取り組みに関しても、主役は団員家族に置き換え、日頃の協力を感謝を込めて団員は補佐役に徹して、主役の前に出る「消防まつり」が近づくと、主役である家族は、分団詰所において出品商品の話し合いを行い、商品の選

職業の異なる人々の集まりで、個性の強い人達が多く、その才能を遺憾なく發揮して、仮装の役柄を楽しめながら「まつり」を盛り立ててくれます。

エピソードとして、かぐや姫の仮装を行ったとき、かぐや姫役をやつた人が急な用事で病院へ行くことになり、急ぐあまり服装は着替えたのですが、顔の化粧はかぐや姫のまま

で、女装の顔立ちで病院へ飛び込んで、女装の顔立ちで病院へ飛び込んでいます。

私たち二十一分団は、これからも消防団の行事等を通じ地域社会との絆をさらに強め、社会に貢献して行きたいと思います。

★★★★★★★★★★★★

## 消防団に入つて十年

第十七分団 班長

飯田 茂樹

二十歳の時にさかのぼりますが、消防団というものが、どんなもののか知らず入団して、十年という歳月が過ぎました。

この十年いろいろな出来事があり、まず最初に分団詰所に行つたときの事です。

十七分団は、小型ポンプの優勝チームとして、富士市の代表に選ばれ猛練習中でした。いきなり、ホースを巻いてみてくれと、言わればびっくりしてしまいました。

そして、驚く事に、なにも知らない四人の新人団員を入れて大型ポンプの要員をやる事に決まりました。こんなに早く富士市の大会に出場出

し、出店の飾り付け、又はより楽しくするため仮装の準備を行います。今までにアンパンマン・マン・峠の茶屋・金太郎・桃太郎・かぐや姫・忍たま乱太郎等を実施しており、分団員は、

金太郎・桃太郎・かぐや姫・忍たま

一方家族の方々は主婦業と仕事で忙しい合間をぬって、わずかな時間でも参加することをモットーに、家族ぐるみの絆をさらに深めることを大切にして「まつり」の行事を楽しんでいます。

十一月十五日、今年も快晴に恵まれた「消防まつり」前日からの準備の疲れもみせず、朝早く主人が出掛けていきます。

毎年、他の分団はどんな模擬店などを楽しみにしながら、私も一足遅れて家を出ます。市役所に着いて、まず最初にすること、それは他の分団で掘り出し物がないか見てくる事です。なかなか、良いものが見つかります。会場を一周しこれからは第八分団の為にひと働きしなくてはと皆ワイワイ、ガヤガヤ、口八丁、手八丁、先輩方や、若い奥様たちと、

そんなこんなで緊張のあまり、この時はよい出来ではなく、やる事がなにもかも新鮮な気持ちで、これが消防団なのかなと感じました。

あつという間に一年が過ぎ、思い出と言えば大会という大舞台に立ち自信をつけ、翌年には、今までの小型ポンプ要員の人達が退き自分たちが小型ポンプ要員になり、私たちはこの年を境に、小型ポンプの部において数年続けて入賞しました。

去年の大会までは大型ポンプ要員を久々にやることになり、緊張感と

いう、いつもの生活感に無いものを味わえて、いつやつてもいいなど感じました。

この年十年目という事か、班長にな

り尚かつ分団ではまだ年上の人達

がいるのにもかかわらず、小型ポン

普指導員の大役をおせつかり、自

分自身これからも頑張って消防団活

動を通して、これまで以上に消防団員として精一杯頑張っていきたいと

思います。

又、消防団のボランティア活動を

通じ、地域の皆様との交流を大事に

い立ち訓練に立ち向かいました。足

の動き、手の動作等不安でしたが

## 消防まつりに参加して

第八分団 班長 菊地 幹

家族 菊地 倍美

だのですから、病院の待合室にいた人達、看護婦さんたちは、吹き出しあります。

やや、ビックリするやらで、病院の中でもまつりの余韻で盛り上がったそうです。

一方家族の方々は主婦業と仕事で忙しい合間をぬって、わずかな時間でも参加することをモットーに、家族ぐるみの絆をさらに深めることを大切にして「まつり」の行事を楽しんでいます。

私たち二十一分団は、これからも消防団の行事等を通じ地域社会との絆をさらに強め、社会に貢献して行きたいと思います。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

## 十七年間を振り返つて

第十九分団 元部長

笠井 熟

練の度に動作が慣れそれらの動きがスムーズに動く様になりました。又、自分の失敗から再度の訓練となれば、心掛け緊張の毎日でした。その結果優勝したのを記憶しております。

入団当時の十九分団の詰所及びポンプ車は旧式でした。平成元年に詰所は岩松小学校前から現在の場所に新築移転され、同時に新しいポンプ車も配置され、その性能の素晴らしさに驚きました。迅速な消火活動が出来ます。良好な設備は揃っておりますので、団員の動作、訓練は欠かさない様にし、地域の皆様の安全と生活を守るべく心掛けていきたいと思います。

すると、すぐに礼式の訓練が始ま

るとの連絡が入り、それから大会に

向けての練習の毎日でした。その頃

の第四方面隊は優秀でしたから、指

